



令和8年3月31日

## 東京都立多摩桜の丘学園 令和7年度学校経営報告

校長 西田 良児

本年度の学校テーマは、児童・生徒、保護者、地域の方々、教職員等の本校に関わる全ての人々の「つながり」を大切にするために、スローガンを「人とつながり、みんなが輝く！花と緑の桜の丘」とした。

本校の最大の特色である地域と連携した教育活動を通して、本校に関わる全ての人々が一体となった取組（つながり）を大切にし、共生社会（地域につながる）の実現に向けた象徴となる学校経営を行っていくという意味が込められている。

児童・生徒一人一人を「守り」「育て」「伸ばす」学校づくりのために、6つの基本方針を設定し、目指す学校像の具現化を進めてきた。

まず、児童・生徒一人一人の安心と安全を確保・堅持する学校づくりである。教職員が各種研修等を重ね、危機管理意識の醸成に取り組んだ。具体的には、通常の避難訓練だけでなく、引き渡し訓練などの総合防災訓練や地域の関係機関と連携した訓練等を実施し、いざという時の対応等について確認した。

次に、児童・生徒一人一人の学びを支える質の高い授業づくりである。個別の指導計画に基づいた指導の充実を図り、学校評価の中でも、保護者からの回答で、約80%の満足度を得ることができ、教員にとっても励みとなった。個に応じた教材・教具の開発やデジタル機器等の効果的な活用に取り組んだ。また、さくら美術館や文学館など児童・生徒の作品の発表する場と機会を充実させることにより、自己肯定感や学習意欲を高めることができた。

次に、児童・生徒一人一人の健康で豊かな心と体を育てるとともに、持続可能な教育を推進していくことについては、スクールカウンセラーの活用など、新たな取組を実施することができた。また、令和7年の11月にユネスコスクールに認定されたことは、本校にとって大きな転機となっている。今後はさらなる発展・充実に向けた取組を構築していく。

次に、一人一人にふさわしい自立と社会参加を支える教育とセンター的機能による地域連携についてである。児童・生徒一人一人の自立と社会参加を支援するキャリア教育・職業教育の充実に努めた。特に、キャリアパスポートの活用を進め、子供の成長の軌跡をまとめた。また、進路指導に関する情報、地域の進路情報に関する情報等の提供や、進路指導日より「For the future」の中で、キャリア教育の紹介等を行った。

次に、職員室と経営企画室の連携による経営企画室機能の充実については、次年度以降、施設の老朽化等に関する対応が出てくるので、引き続きプロジェクトチーム等を立ち上げて計画していく。

次に、校務運営組織力の教化と働き方改革については、学校で働く教職員、相互で連携・協力し、「働き方改革」を推進してきた。例えば、保護者配布資料の縮減（ペーパーレス化）を実施した。Classiの導入により、お便りの電子化を図り、各種保護者向けアンケート類についても電子化を実施し業務改善につなげた。また、「NO残業デー」「NO会議デー」等の導入による「定時退庁」の推進や教職員による電話対応業務の縮減も図った。さらには、来年度は、職員室の環境改善等を実施することで、多様な働き方をサポートすることにつなげていく。

学校の教育内容については、次年度に向けて引き続き教育課程の改善・充実を図っていく。肢体不自由教育部門では、小学部から高等部段階までの縦の系統性を整理していく。

知的障害教育部門では、小学部において、自閉症学級児童の「国語・算数」の内容と時間の拡充を図る。中学部では、今年度新設した「理科」と「社会」の時間の指導の成果検証をするとともに、指導の充実を図る。高等部では、重度重複学級において「自立活動」の充実を図るとともに、全普通学級に「理科」と「社会」を新設する。さらに、令和9年度の全校水曜日1.5便下校に向けて教育課程及びスクールバス等の準備を進めていく。

### <数値目標と達成状況>

数値目標の評価 A：目標の数値以上の成果をあげた／高度な目標を達成した B：目標の数値を達成した。／高度な目標の数値をほぼ達成した。 C：目標の数値には届かなかったが、おおむね達成した。 D：目標が達成できなかった。

### <数値目標>

#### 【方針1】児童・生徒一人一人の安全と安心を確保・堅持する学校づくり

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
継続	いじめ【0】、体罰・不適切な指導【0】、自殺【0】	A	生活指導部を中心に担任等によるきめ細かい指導	いじめ等については、1件あったが、対応やいじめ対策委員の役割などを日ごろから周知徹底することができた。	A

継続	週ごとの生活指導重点項目の共有 【毎週・月曜日】	A	前週までの生活指導など、学校運営上の重点項目（情報管理等含む）を週ごとに設定、職朝で共有し、重大事故の未然防止を徹底	校長先生の助言を中心に、毎週職員室前に今週のキーワードとして掲示し、注意喚起と取り組みを実践した。	A
継続	危機管理研修の実施【20回】、防災訓練（避難訓練等）の実施【12回】	B	校長はじめ、各分掌が組織的に分担	危機管理研修等は、計画とおりに実施することができた。	A
継続	学校事故版インシデント情報共有【10回】	B	組織的に環境整備 インシデント情報の集積と発信・共有	具体的な対応方針など、校内で発信・共有した。	B
継続	医ケア版インシデント情報共有【10回】	B	I 部門だけでなく、全校対象に医ケアへの理解啓発	新規に医ケア専用通学車両緊急搬送訓練、人工呼吸器を使用する児童の緊急搬送訓練（非常勤看護師を含む）を実施した。	B
新規	いじめ体罰根絶に向けた児童生徒からの聞き取り【年3回】心身の安定等を目指す児童生徒からの聞き取り【随時】	—	スクールカウンセラー等も活用し多角的面談等の実施	スクールカウンセラー全員面接を実施。他の学年でも学部主任、担任と連携し、随時面談を設定した。全員面接以外の児童・生徒の面接（授業場面で観察を含む）・保護者面談も実施することができた。	A
新規	不登校傾向児童生徒の対応を進【連絡会3回以上】	—	学部主任を中心に連絡会を学期ごとに開催し、対応策検討	児童・生徒の状況に合わせて学部等での共有と取組を行った。	B

継続	学校評価保護者アンケートにおいて、「安心・安全」に関する項目の満足度の回答【90%以上】	A	通信等【8回以上発行】での取組み紹介	予定通り、生活指導便り「まもる！」を10号まで発行し、取り組みを紹介できた。	A
----	--	---	--------------------	--	---

【方針2】児童・生徒一人一人の学びを支える質の高い授業づくり

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
継続	学校評価保護者アンケートにおいて、「指導の充実」に関する項目の満足度の回答【90%以上】	B	個別指導計画の保護者との情報共有	学校だよりで3観点評価について情報発信を行い、個別面談での情報共有を進めた。	B
継続	「SAKURAベーシック」の構築と活用 ・教室環境の基礎・基本 ・登下校時の指導の基本 ・朝の会等の学習場面の指導の基本 ・移動時の指導の基本 ・校外歩行時指導の基本	A	9月までに、各指導場面における基礎基本を洗い出し、年度内にPDF冊子にして共有を図る	年度初に全体周知を行い、SAKURAベーシックを活用した指導を進めている。校内移動時の指導について確認、状況共有を行った。	A
変更	個別最適な学びの充実と協働的な学びを実現するための基礎基本の確立」をテーマにした研究活動	—	研究紀要作成による成果の蓄積	各学部で研究を進め記録を取りまとめることができた。	B
継続	講師・助言者を招聘した授業研究の実施【各学部2回以上】	B	学部の課題に応じた授業の選定と実施	講師を招聘し授業研究を進めることができた。	B
継続	小学生科学展等への参加	A	科学展等への計画的な参加	本年度は児童の実態や健康状態を考慮して、参加していない	C

変更	G I G Aスクール(小中学部一人1台端末)・CYOD(高等部一人1台端末)を活用した授業の実施【実践共有資料の作成】	—	デジタル作成スライドの作成し、事例を蓄積、実践紹介を実施	夏季休業中に研修会を行いデジタル教材の作成を個々の教員が進めている。	B
新規	教材教具の手引きを作成、教材の蓄積【実践共有年2回以上】	—	事例を蓄積、実践紹介を実施	夏季休業中に研修会を行い、個々の教員が作成を進めてきた。	B
新規	教科会を活用して、各教科の一貫性についての検証【成果物の作成】	—	各学部で実施する教育活動について12年間を見通す整理・改善	教科会を隔月で実施し、年間指導計画の課題整理を進めた。	B
変更	児童生徒の学校生活への充実度がかかるため、学校評価による児童・生徒アンケートでの「学校が楽しい」回答【90%以上】	B	ふれあい月間と合わせてアンケートを実施する。	11月第2回ふれあい月間に向けて、生活指導部と連携してアンケートを実施した。	B

【方針3】健康で豊かな心と体を育てるとともに持続可能な開発のための教育(ESD)を推進

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
継続	「さくら美術館」の作品更新【30回】、「さくら文学館」の作品更新【20回】	A	美術科会を中心に実施	年間計画を基に更新。合わせて、HPにも掲載している。	A
継続	アートプロジェクト展等への参加【80作品以上】	B	美術科担当者会、各学部が連携して実施	アートプロジェクト展17作品、グリナード永山20作品、ひじり館夏祭6作品を出展した。	B

継続	図書室の本の貸出（校内）【2000冊】、外部と連携した読み聞かせ会の計画的実施と読書活性化イベントの実施	A	総務部を中心に全校で活用	図書活性化イベントとして、6月にふれあい月間の取組として読書のキャンペーンや図書支援員による読み聞かせ会・室内装飾の作成の取組を行った。	A
継続	図書の貸出・整理等を学習活動として試行展開【10回】	A	図書管理システムの導入に伴い、作業学習の一部に位置付けて実施	Ⅱ高作業班に依頼2回。今後も継続していく。	B
新規	ESDに関わる授業実践を収集【各学部2実践以上収集、事例集の作成】【HPによる成果発信3回以上】	一	児童生徒に実態に合った実践をESD推進部で収集・発信	現在児童・生徒向けフライヤーを作成。今後はHPでの広報につなげる。	B
継続	さくら運送の活動を継続・推進する。【12回以上】	A	Ⅱ部門高等部の組織的な運営	作業学習で年12回の活動を計画し、予定通り行った。	A
継続	国際支援活動、ユニセフ共同募金・ダルニー奨学金募金・書き損じはがき等総額【10回以上】	A	生徒会、国際支援隊による啓発	街頭募金活動年間4回計画。1学期2回実施済み。書き損じはがきは校内、校外（ひじり館）および島田分教室に回収ボックス設置し、本校では月1回、分教室では毎日の日課として活動中である。	A

【方針4】一人一人にふさわしい自立と社会参加を支える教育とセンター機能による地域連携

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
継続	本人及び保護者が希望する進路の実現率【100%】(企業就労率【25%】)	A	進路指導部と学部・学年の連携	卒業生全員が進路実現。	A
継続	キャリア・パスポートの運用【運用方法の確立】	B	関係部署が連携し、運用方法の構築	2月の最終面談では、保護者より「はげましの言葉」をいただいた。運用方法2年目、順調に経過している。	B
新規	保護者が必要と思われる進路指導に関わる情報の発信【年5回以上】	—	キャリア教育について理解を深める情報発信を重点に	各学部での指導とキャリア教育の関係について本校の授業を題材に解説することができた。	B
継続	副籍制度を利用した直接交流の実施率【30%】、 小中学校との学校間交流【15回以上】 高校との交流【2回以上】	B	コーディネーターによる計画的な実施。 オンラインを組み合わせたハイブリッド型での実施も可能	直接交流実施率は21.8%であった。小中学校との学校間交流については、15回以上実施することができた。高校交流は文化祭での交流を実施。	B
新規	地域交流の実際について情報発信【年5回以上】	—	地域交流の実際について発信	地域校との交流を学年便り等で随時発信できた。	A
新規	発達障害エリアネットワークによる高等学校支援【2回以上】	—	総務担当主幹教諭による取組として実施	8月までに障害者雇用に関する相談や合理的配慮に関する相談など2回実施した。	B

【方針5】 職員室と経営企画室の連携による経営企画室機能の充実

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
新規	副校長と経営企画室長との情報共有の強化【月1回】	—	職務の効率化を目指す情報共有	情報共有については、毎朝の確認及び週1回の主幹会等で実施。特段必要な案件があった時は、別途、情報共有の場を設けた。	B
継続	効率的・効果的な予算編成・執行	B	効果的な予算執行	効果的な予算執行ができた。	B
継続	紙類の使用量削減【10%】	A	ICT機器を活用した会議で、紙資料の削減	Classiの導入により、全校配付の紙資料は減少した。	A
継続	電気の使用量の削減【前年度3%】	B	廊下等照明の小まめな消灯、節電	意識して廊下等の消灯に心がけた。	B
継続	窓口・電話対応での保護者・来客満足度【90%】	B	来客等予定の的確な情報共有 目的に叶った案内の徹底	丁寧な対応を心掛けた。	B

【方針6】 校務運営組織の強化と働き方改革の更なる推進

	項目	R6 評価	R7 取組の方向	(年度末記載)	R7 評価
変更	時間管理の意識をもち、定時外在校時間（月間）45時間以上の教職員数の縮減【年平均12%未満の実現】	B	消灯・退庁の基準を定める 毎日19時にBGMを流し、退庁ムードの醸成	19時退庁を継続して促していく。	B
継続	「マイ定時退庁日」の設定【週1回】 「毎週金曜日」の完全退庁日の設定	B	金曜日は、19時を完全退庁日とする	金曜日の完全退庁に努める。継続して促していく。	B

新規	校務におけるデジタル化による効率的職務の遂行	—	Classi の早期導入、C4th の着実な運用	7月にClassiを導入。9月より本格実施した。	A
継続	組織力の向上【分掌等全員参画】 意思決定にかかる流れの整備と円滑な決定【教職員自己評価全項目+3類】	B	副校長が中心となり、学部・分掌主任が仕事の見える化・組織化を推進	学部・分掌主任等から主幹教諭・副校長へ相談し、意思決定につなげた。	B
新規	広報の充実 ・ホームページ更新【150回】 ・ホームページ閲覧数【月1000以上】	—	保護者が学校外の友人に見せたい学校広報物の作成	ホームページの更新回数122回 閲覧数は、月平均288000回であった。	A
新規	保護者アンケートでの「学校の説明は分かりやすい」回答【85%以上】	—	広報等の充実による学校のDX化の推進	Classiにおける広報活動と連動させて学校評価アンケートを実施した。Formsの中に保護者向け説明を記載し、回答の参考にできるようにした。	A
新規	教育公務員としてサービスの厳正【サービス事故0】	—	サービスに関する講和等の適宜実施	学期の始め・終わりにはサービス事故防止研修を実施。	A
継続	コンプライアンスの徹底 個人情報に関する事故【0】 会計事故【0】 クリーンデスクの徹底【教職員間での相互点検（毎週）】	A	手渡し、施錠管理、机上整理等の励行 組織的な点検の実施 毎週末に学年間における相互の点検を実施	毎週金曜日にはクリーンデスクの確認を実施。 コンプライアンスの徹底を実施。	A